

地域指導者と連携した 柔道授業への取組

千葉県南房総市立
しらほま
白浜中学校
全校生徒数101名
(男子51名 女子50名)

実践内容

実施目的

- ①柔道が昔から盛んな地域性を考慮し、地域の教育力を活用して柔道授業の充実を目指すことにより、生徒たちに「相手を尊敬する心」「挨拶・礼」「社会性」「節度・けじめ」等を身に付けさせ、心豊かな生徒を育成する。
- ②教員の柔道への授業力をより向上させるために、指導計画（年間計画・単元計画等）を細部まで充実させ、1単位時間の授業の質を高め、「運動好き」な生徒を育成する。それにより、生徒自らの体力向上への意欲の高揚と生涯スポーツの実践へ向けての基礎づくりを図る。

実施内容

1 武道振興協議会の組織づくり

(1) 地域人材の発掘

市教育委員会とタイアップしながら、地域における柔道指導のできる人材をピックアップして、協議会への協力をお願いしています。

(2) 武道振興協議会の設立

地域の特性を生かし、柔道を通して主に学校・地域が連携して子どもたちを育成するために、学校が中心となり地域の武道指導者（体協・スポーツ少年団・道場・教員等）で組織する武道振興協議会を設立しています。

2 武道振興協議会の役割(開催は年3回)

(1) 柔道授業の指導計画(年間計画・単元計画等)の作成について

主に他校の教員の指導者から、今まで培ってきた多くの実践を通して得られた経験を生かして、年間計画や単元計画を作成するとともに、生徒に対して、いろいろな視点からのアドバイスができるようにしています。

(2) 授業の実践について

教員の指導者からは、主に授業全体の流れにかかわることを中心に、体協・スポーツ少年団・道場の指導者からは、主に技のポイントにかかわることを中心として、教授していただくようにしています。特に男女共習での授業に取り組んでいるため、効率的でかつ効果が上がる指導にしていくためには、細部にわたりどのような点に留意して実践することがよいのかを、重点的にアドバイスができるようにしています。

(3) 学習ノート及び手引き書「チャレンジ柔道」の作成について

授業をより質の高いものへと変化させるために、学習ノートの内容を充実させるとともに手引き書「チャレンジ柔道」を作成して活用していくことが大切です。各指導者は、授業実践の時と同様に多方面からのアドバイスができるようにしています。

実施上で工夫したこと

- ①武道振興協議会については、地域との窓口を一本化して教頭がかかりました。
- ②授業においては、生徒のやる気を引き出すことが柔道を「好き」にさせ、ひいては体力向上に役立つと考え、指導の工夫を重ねながら、生徒に考えさせる場面も取り入れる指導過程を心がけました。
- ③女子の指導については、恐怖心の少ない技を取り入れる等工夫を重ねました。また、柔道部員（男子）を指導場面で活用して授業の活性化を図りました。

主な成果

- ①地域指導者を発掘し、地域の教育力を活用する中で、学校・家庭・地域と連携することにより、学校への信頼が深まりました。
- ②武道振興協議会からのアドバイスを生かし、多くの工夫をする中で、生徒のやる気を育み、授業の質的向上が図られました。また、授業における生徒の学習意欲が高まり、体力向上へ向けての基盤づくりができました。
- ③礼法の指導等を通して、日常生活における挨拶等が活性化しました。

●体力合計点の3年間の変化

(点)

第3学年	H21	H22	H23
男子	34.5 (49.4)	53.1 (51.0)	58.9 (-)
女子	50.2 (50.9)	60.0 (52.3)	62.1 (-)

※ () 内は体力・運動能力調査の全国平均

平成22年度以降、新体力テストで総合評価A段階の生徒が全校の約5割となりました。この背景には、本取組後、他種目でも生徒に一層の運動意欲の向上がみられたことに加えて、体育授業時における3年間の積み重ねを重視した学習カードの活用、短時間ながらも導入段階で継続してきた体カトレーニングの効果が考えられます。



武道振興協議会①

各指導計画へのアドバイス



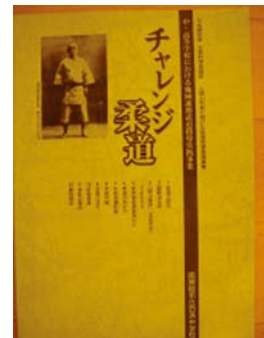
武道振興協議会②

授業実践等へのアドバイス



柔道場の掲示物

基本動作や技等の説明



手引き書「チャレンジ柔道」

授業の流れの確認や技の習得時に活用

研修項目	
○学習内容	<ul style="list-style-type: none"> ・投げ技（体落とし） ・固め技（横四方固め）
○学習のねらい	<ul style="list-style-type: none"> 知識・理解 → 基本動作と関連づけて基本となる技が理解できた。 関心・意欲・態度 → 互いに協力して、教えあうことができた。 思考・判断 → 崩しと体さばきを使い、体落としをかけることができた。 技能 → 横四方固めで崩え込むことができた。
学習内容のポイント	
研修形態と研修時間	
研修場所	
研修日	
自己評価	崩しと体さばきを使い、体落としをかけることができた。 A・B・C
相互評価	横四方固めで崩え込むことができた。 A・B・C

学習ノート



授業展開①

礼法の指導



授業展開②

帯の締め方の指導



授業展開③

受け身の練習

第3章 体育・保健体育の授業を改善するために
体力向上への活用のポイントと取組事例